こどもキャンプ２０１３冬

活動報告

『森で牛と遊んで、クリスマス』

２０１３年１２月２１～２３日　栃木県那須町　森林ノ牧場

キャンプサイト紹介～森林の牧場となった理由～

森林の牧場の社長さんは山川将弘さん。

この山川さんは、こどもキャンプのスタッフである、私（亮輔）とかんちゃん（菅野俊昭）の学生時代からの友人で、ともに海外支援を行ってきました。彼は、高校生の時に酪農家になりたいと思い、農業大学卒業後、夢を叶え、山地酪農と呼ばれる方法で牛を育ててきました。この山地酪農は牛を育てるだけではなく、木も育て森を守ります。ホームページによると…

人の入らなくなった森林は鬱蒼とし、さらに人を遠ざけてしまいます。再生し活用しようとしてもその労力は大きく、対価に見合わないがために放置されてしまうのが現実です。そこで私たちは牛たちの力を借りることにしました。森林の中に放牧した牛たちは、木の葉や草を食べ、森林の中を歩き糞をします。そうして少しずつ開拓された森は、明るく、人の入りやすい森へと変わっていくのです。

つまり人間の手で、本来の自然に近い牛などの草食動物がいる状態にして、初めて人間と共存できる自然な森ができるわけです。

この牧場には牛舎がありません。牛たちは寝る時も森の中にいます。牛たちを狭い場所に閉じ込めておかないから牛たちはたっぷり運動して元気モリモリです。本当に森の中を走りまわります。

ジャージー牛という、乳牛として有名なホルスタインよりも乳量が少ないが濃厚なミルクがとれる牛を育てる。こんなこだわりがあるからこそ、テレビ番組シルシルミシルでも紹介されたヒット商品「搾るヨーグルト」が生まれたわけです。

このキャンプでこども達に、触れて欲しいと願ったことそれは、酪農家になる為の夢を叶え、こだわりをもって仕事とし、その夢を大切に実行する山川さんの姿をみて、どんな人が夢を叶えられたのかを知っておいて欲しいと言う事。単純にこどもの憧れのひとつ“社長”と呼ばれる人が意外と若くて、気さくだったってこと。

そんな彼から何かを得てもらえたら、うれしいなぁとの計画をたててきました。もちろん、キャンプサイトとしての魅力も満載の牧場。森の中にいる自然な姿の牛とふれあうことができること、搾りたてミルクを味わってもらえること、暖かいカフェで団欒できること、牧場のスタッフ、近隣の人々がつくる温和な雰囲気、運が良ければ雪遊びができること。子どもたちがここでこそ発揮できる力を想像して、準備に取り掛かってきました。

文責　鈴木亮輔

さわやかイケメン山川さん

12月21日　キャンプ初日

10:45　こどもたち森林ノ牧場集合
11:00　アイスブレーク／自己紹介
12:15　昼食
13:15　森林ノ牧場・山川社長の話
14:15　牧場探策・雪遊び
16:00　宿舎に移動して、夕食作り
18:30　夕食
19:30　班に分かれてミーティング
20:00　自由時間（眠い子から順次就寝）
22:00　最終就寝時間

アイスブレーク

緊張ほぐしのため、班対抗で雪だるま作り大会。
最後は、スタッフのあかりが人間雪だるまに・・

自己紹介

初参加の子も多く、まだ緊張・・・

森林ノ牧場・山川社長の話

牧場や牛のこと、少年の頃酪農に出会ったエピソード、なぜ酪農の道に進んだのかなどなど、お話ししていただきました。

牧場探策・雪遊び

山川社長に案内してもらい、
牧場を探策。ひろいひろい森の中、
牛たちがのんびりと、たたずんで
いました。
ここでこどもたちは、牛と初対面。
最初はおっかなびっくり・・・
対面がすんだら、雪遊びに突入。
雪原をゴロゴロ・・・大人を標的
に雪合戦、雪だるま作り！！

スタッフの絵日記　　せいこ（高野聖子）

十二月二十一日　土曜日
山川社長が、牧場のことや、ジャージー牛について、分かりやすく説明してくれました。知りたいことがたくさんあって、みんなは、真剣にお話を聞いていました。牛には、4つも胃袋があるなんて、びっくりしました。キャンプ中に、牛に触ったり、お世話したりするのが楽しみです。

12月22日　キャンプ2日目

7:00　起床／朝仕事（朝食作り、
　　昼食おにぎり作り、牧場で牛の世話）
9:00　朝食
10:30　牧場で、いろいろ好きに遊ぶ
12:30　昼食
14:30　モンゴリアビレッジ・テンゲルで温泉入浴
17:00　夕食作り
19:00　夕食
20:00　班に分かれてミーティング
20:30　こども・スタッフ有志で、創作演劇！？
21:00　自由時間（眠い子から順次就寝）
22:00　最終就寝時間

牧場で、いろいろ好きに遊ぶ

「牧場で楽しそうな遊び」を大人スタッフがいくつも準備。こどもは自由に好きな事を選んで参加。いくつでも掛け持ちOK。もちろん、どれも選ばず自分がやりたい他の遊びをしてもOK。

山川社長の焼き芋大会

森の中で自分たちで火をおこして焼きました。火の隅っこでは、昼食（汁物）のダッチオーブンを温めながら。

漫画家・端野洋子さんのイラスト教室

プロの漫画家さんに、『ポケモンのキャラ』を描いてくれ！！とリクエストしつづける、こどもたち・・・

かまくら（雪かまぼこ？）作り

かまくら作りでスタートして、なぜか、かまぼこ型になって『かまぼこ寝袋』作りに・・・完成は翌３日目に持越し・・・はたして何が出来たのか？

ピザ生地作り

次の日の昼食、ピザの生地作り。手で最後までこねました。一日かけて発酵させて、生地をふくらませます。

や

森のブランコ作り

森の自然素材を使って、ブランコ作り。

丈夫な太く大きな木を選んで作ります。

これも完成は次の日に持越し。見事に遊べるか？？

カフェの店員さん

スタッフに一生懸命セールス。本物のお客さんがやってくると、スタッフ相手とは別人の緊張した面持ち・・

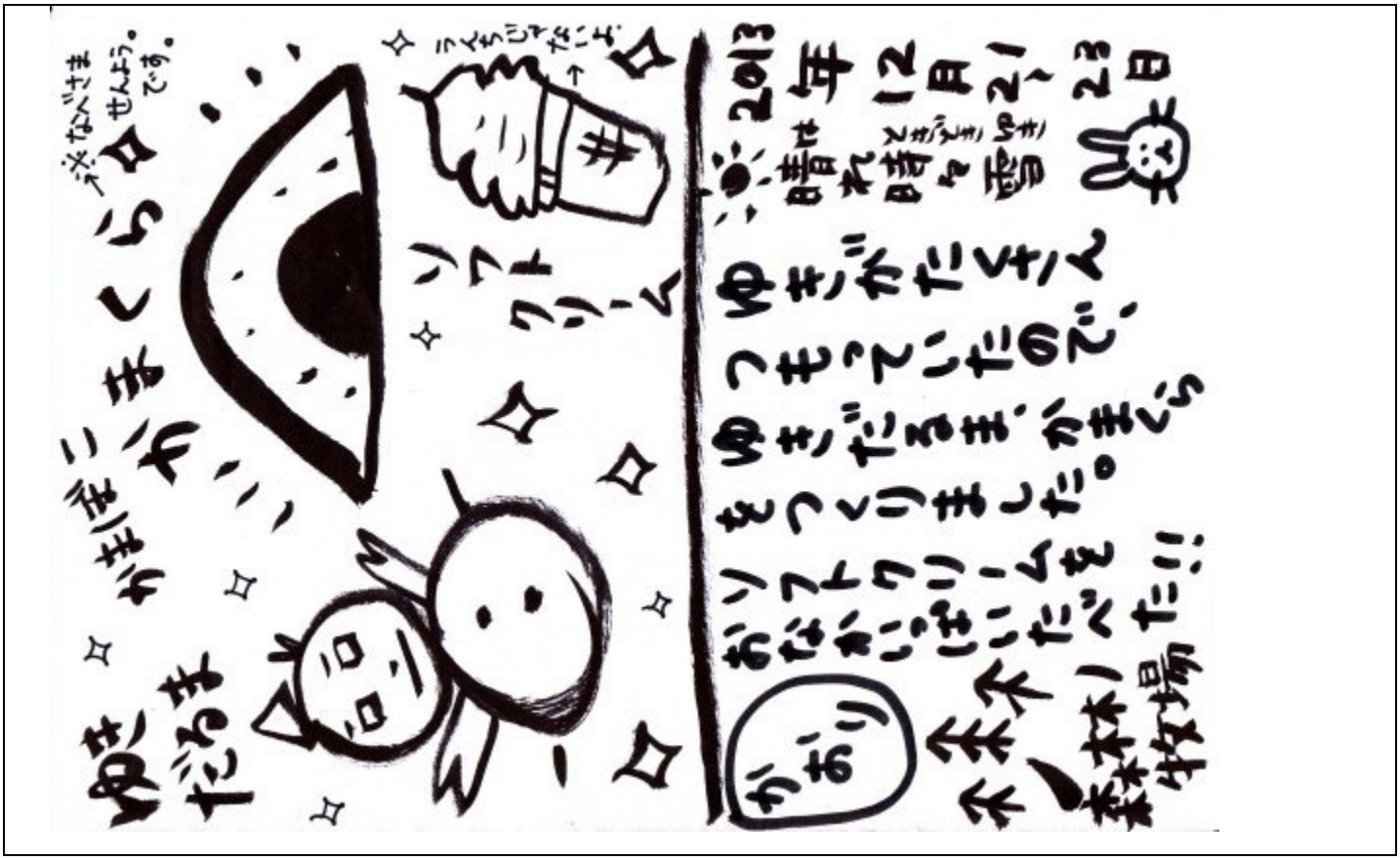
昼食づくり

昼食はおにぎりと、ダッチオーブンを直火であたためた、牛肉入り豚汁？？

段ボールソリすべり

牧場一番奥の斜面で、日が暮れるまでひたすらすべる！！

スタッフの絵日記　　かおり（宮園香織）



↑露天風呂と、
モンゴルの移動式住居『ゲル』→

入浴『モンゴリアビレッジ・テングル』

森の中にゲルが立ち並び、本当にモンゴルに来たような気分。露天風呂と檜風呂で、こどもたちも大喜び、大騒ぎ。
大変お世話になりました。

↑主演の『まゆげ』と、
おなじみ？のショッカー→

創作劇！？『シンデレラ？？』

こどもが自分たちで企画して始めた創作劇『シンデレラ』。台本・演出もこどもたちで、その厳しさに演者の大人スタッフは悲鳴を上げ、観客からは微妙な笑いが・・・

スタッフの絵日記　　そうちゃん（峯松崇平）

12月23日　キャンプ最終日

6:30　起床／朝仕事（朝食作り、
　　昼食おにぎり作り、牧場で牛の世話）
8:30　朝食・荷物整理
10:00　牧場で、いろいろ好きに遊ぶ
12:00　昼食
13:00　みんなで最後のミーティング
14:15　森林ノ牧場解散
　　気仙沼・東京の子、新幹線乗車の
　　ため新白河駅へ

最終日も牧場で、いろいろ好きに遊ぶ

山川社長指導のもと、薪割りに挑戦

大人用の本物の斧で薪割りにトライ。まるまるとした薪を割るのはひと苦労・・・

イラスト教室

前日にひきつづきこの日も、ポケモンが大人気。でも、自分の似顔絵を描いてもらうこどもも

。

カフェの店員さん

この日もカフェには店員さんがいました！！

かまくら（雪かまぼこ）作り　完成！！

完成した雪かまぼこ、別名「なべさんのカンオケ」・・・
しかし、入ってみたのは山川社長とこどもたち・・・

ダッチオーブンで、ピザ焼き

前日作った生地は立派に膨らみました。
生地を伸ばしトッピング。生地を入れたダッチオーブンごと焚き火の中に置いて焼きました。
牛も近くで、ピザ焼きの様子をながめていました。

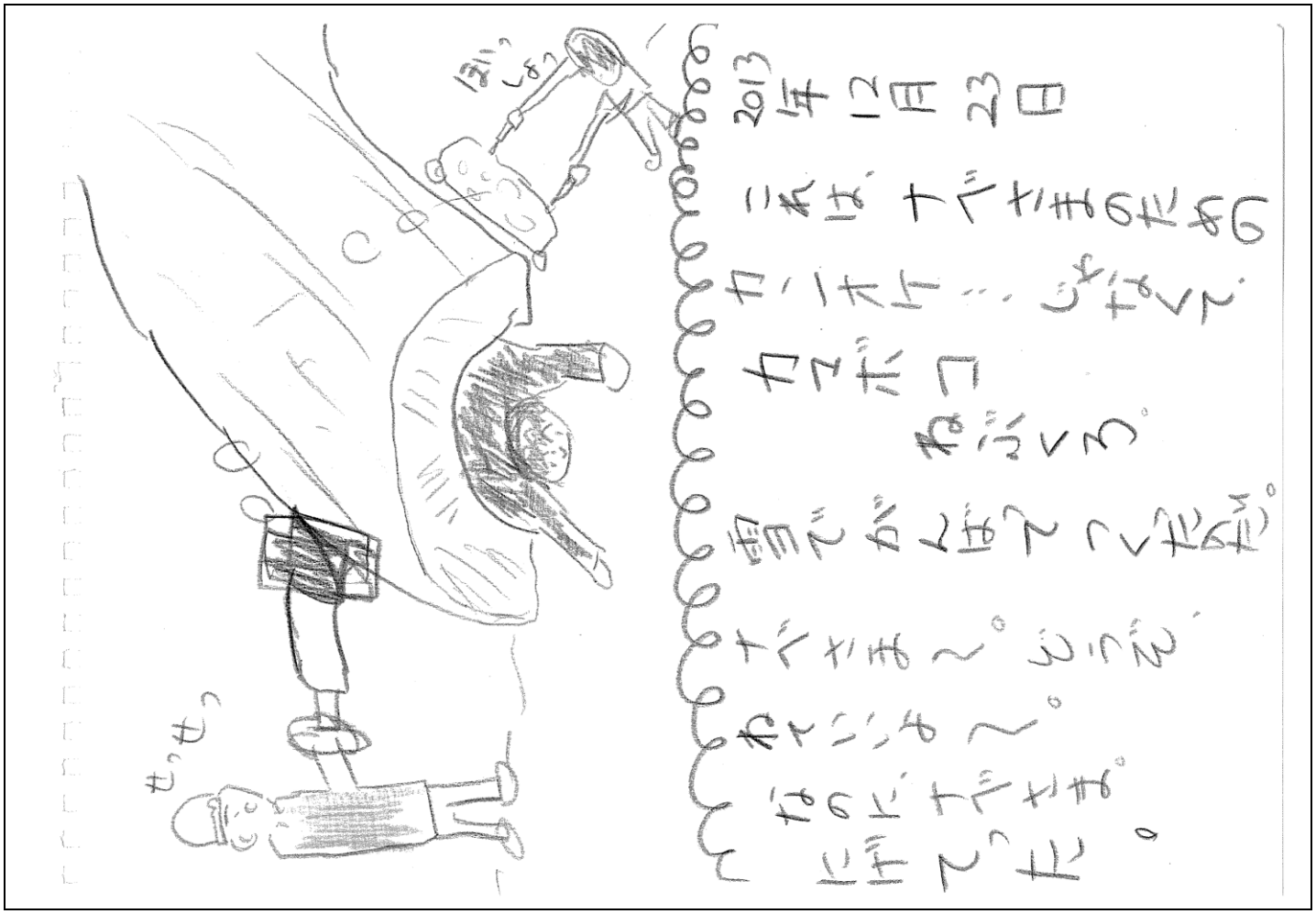
マシュマロ焼き

ダッチオーブンでピザを焼くかたわら、持参したマシュマロを焼いて食べる食べる。

２日がかりの大作が完成！！こどももおとなに舞いました。（本当に大きく、高く上がる）牧場の斜面に作ったので、眼下の、牧場下の池に向かって飛び込んでゆく感じで、気分爽快！！

森のブランコづくり　完成！！

スタッフの絵日記　　ひじりん（岡本聖）



食事つくり

※気仙沼市唐桑町の馬場康彦さんより、鱈とメカジキハーモニカをいただきました。

※火を焚いて、ごはんは羽釜で炊き、汁物は時計型ストーブで煮炊きしました。

※サンドイッチ、シュトーレンは、スタッフ渡辺の天然酵母パン、菓子です。

【メニュー】

一日目　昼／　ホワイトシチュー　ごはん

　　夜／　おでん　ポテトフライ　マカロニサラダ

　　厚揚げ（炭火七輪焼）　ごはん　味噌汁

二日目　朝／　厚焼きたまご　ほうれん草ゴマ和え

　　大根浅漬け　納豆　ごはん　味噌汁

　　昼／　牛肉入り豚汁　おにぎり

　　夜／　鶏のから揚げ　ポテトサラダ

　　サンドイッチ

　　鱈のトマト煮　焼鮭（炭火七輪焼き）

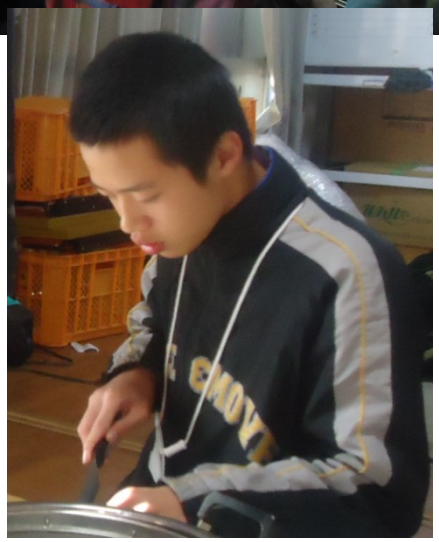
　　メカジキのハーモニカ蒸し焼き

　　ごはん　スープ

三日目　朝／　厚焼きたまご　小松菜ゴマ和え

　　大根浅漬け　とろろ　ごはん　味噌汁

　　昼／　おにぎり　サンドイッチ　シュトーレン



スタッフの写真日記　　さちを（内田祐生）

「い・た・だ・き・ま・す」

（註:滝川クリステル風に「い・た・だ・き・ま・す」）

キャンプではみんなでご飯を作って、
みんなで食べたよね！

毎日のご飯のなかで、気づけば、
決まりができてました。

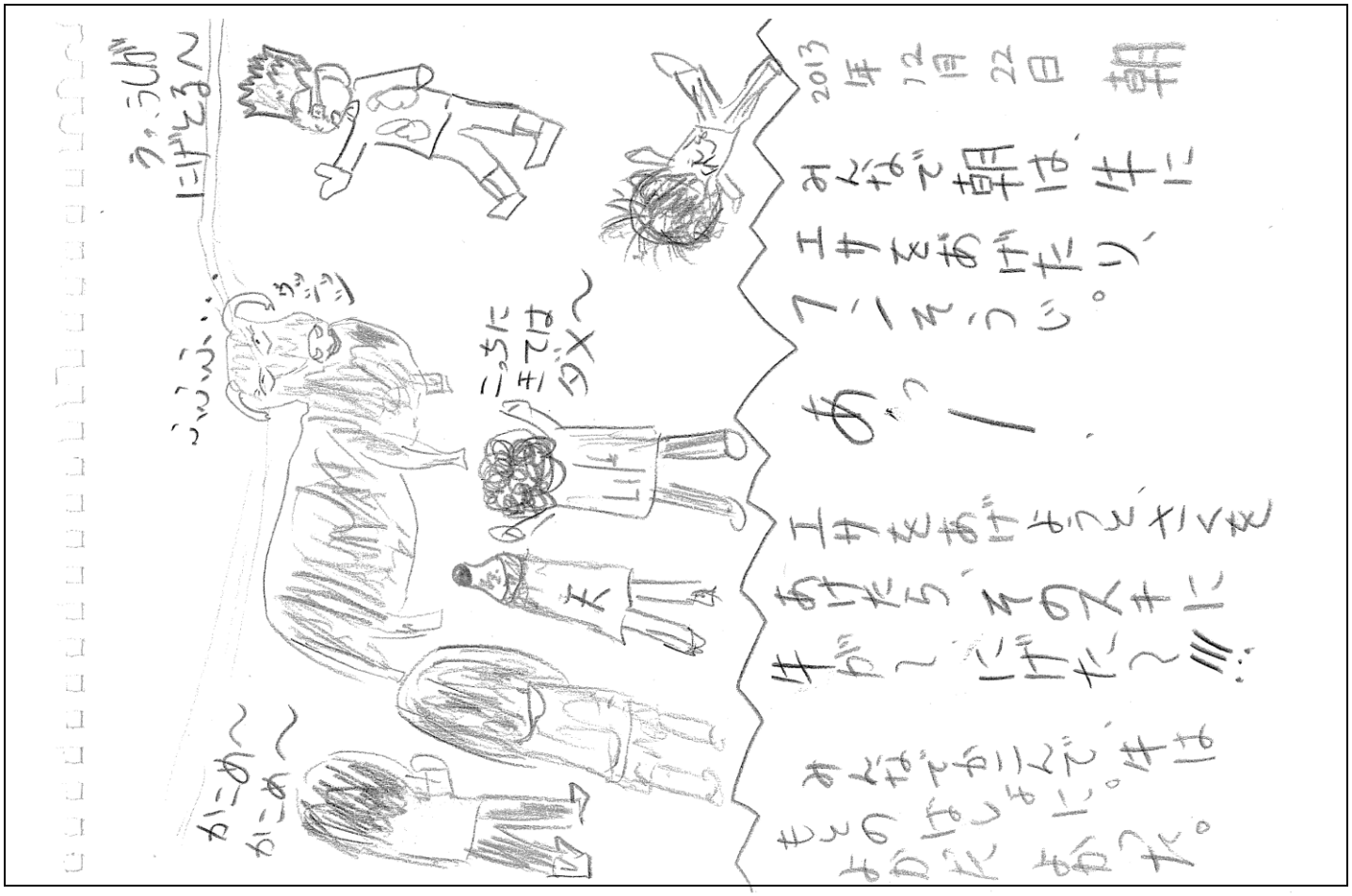
ご飯の前に言う言葉は？
もちろん「いただきます」だよね？
みんなで手を合わせて
「いただきます」をしようとすると、
いつの間にかみんな声を合わせて

「い・た・だ・き・ま・す」

こ、これは！
どこかで聞いたことのある…笑

牧場で毎朝、牛の世話を

スタッフの絵日記　　ひじりん（岡本聖）



2013 冬キャンプ　みなさまありがとうございました！！　　渡辺　和浩

自分が「やりたい」ことを「納得するまでやってみる」。牧場での遊びも、食事作りや牛のお世話の仕事も、こどもが自分でやりたいことを、時間や大人の都合に縛られず、納得いくまで出来るように進めました。

元陸上選手・為末大さんが、孔子の『これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず』という言葉を引用し、「楽しむ事が個人としては最上の戦略であるとおっしゃっているように思います。努力は夢中に勝てないんです」と、書いていました。

自分が夢中になれることなら、しんどい事も努力も、苦にならずできる。夢中だからこそ、自ら苦も努力もしながら進んでゆける（でも本人は、苦や努力とも思わず）。

夢中になるためには「自分がやりたいと思える」こと。それを自分の目で見て、考え、決めてゆくこと。「楽しい」「すてき」と思うことを、自分で作ってゆくこと。

そんなことを、少しでもこどもに体感してほしいと思い、今回のキャンプの内容を考えました。

夜の就寝、消灯時間は決めたものの、他の子に迷惑かけなければ、眠らなくても良いとしていました。でも、今回はこどもが寝るのが早かった（笑）。やりたいことを、納得するまで続ける。すると心も体も心地よい疲れ、やりきった充足感に包まれ、自然と一日の終わりの休息になっていったのだと思っています。

そして、今、周りにある物、目に見える風景、考えられることがすべてではない。自分が知らない世界もあるはず。

自分の周りに、今ない物や風景も、自分たちで作って行ける、変えてゆけるはず。

そんなことも、こどもに感じて欲しいと思っていました。（こどもだけでなく、おとなもですね）

自分たちで作ってゆくためには、自分がやりたい、楽しい、すてきと思うことを、夢中になって続けてゆくこと。そのためにも、今自分を取り巻く状況だけを見て、悲観したり、あきらめて欲しくはない。

キャンプサイト紹介に書いたように、山川将弘さんが「自分がやりたいこと」の実践で作ってきた森林ノ牧場という場所は、今回のキャンプに最高の場所だったと思います。

少し難しい『山地酪農』（キャンプサイト紹介参照）の意味とかを、今こどもに急いて伝えようとは思っていません。１０年２０年後大人になり、酪農の知識や情報を知った時に、「でも森林ノ牧場のような酪農もあるよな」と理解してくれたり、進学就職、自分の進路を考える時に「山川社長のような生き方もあるよな」と考えてくれれば、良いなと思います。

気仙沼、那須周辺、東京と多地域合同のキャンプに出来たことも、嬉しかったです。「知らない子ばっかりだから、どうしよう～」とキャンプ前に不安がっていた東京の子も、「（同じ地域の）友達と一緒の班じゃなきゃ、いやだ」と、集合時に泣き出した那須の子も、始まり数時間後には、顔馴染みのように他の地域の子と過ごしていました。

そして、こどもは小学生、中学生、スタッフは高校生、大学生、２０歳前後社会人、２０代、３０代、４０代社会人と、各世代まんべんなく、幅広く集ったキャンプとなりました。

人間一人ひとり想う事考えることは違うわけで、自分がやりたいことを各々追求してゆくと、バラバラになりかねない。でも今回のキャンプでは、自分自身を大切にしつつ、他の人と協力して一緒になって「こどもキャンプ」という世界を作ることが出来たのではないかな、と思っています。

キャンプ終了後、年明け早々、以前気仙沼で行っていたキャンプに参加してくれていたこどもさんが、急病で亡くなりました。葬儀に伺った気仙沼で、１０年２０年後の将来を迎えられなかった彼女の事を考えながら、「彼女の生きた１０年間で、どれだけ自分のやりたいことを納得するまでできた年月だったかな・・・」と思いました。

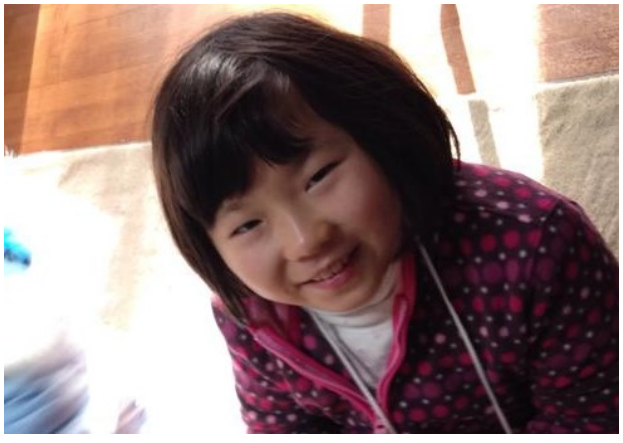
私事ですが、先日父親が８２歳で他界しました。山梨県の田舎町で戦前生まれ、青春期を戦中に過ごし、学歴もない中、東京に出て暮らしてきた父親も、８２年間でどれほど自分の納得する時間を過ごしたのか、また考えました。

最後に、たくさんのご配慮とともにプログラム活動場所をご提供していただいた、山川社長をはじめ森林ノ牧場の皆さま。

心地よい生活、宿泊施設、活動場所を提供してくださった那須の皆さま。

暖かい入浴の機会を提供してくださった、藤村さんをはじめモンゴリアビレッジ・テンゲルの皆さま。

今回のキャンプで、こどももおとなも貴重で楽しい時間を過ごせたのは、皆様のお力添えの賜物だと、感謝してもしきれません。ほんとうにありがとうございました。



開催概要

期間　　２０１３年１２月２１～２３日
活動場所　栃木県那須郡那須町　森林ノ牧場　　宿泊場所／　森林ノ牧場近隣の研修施設
参加者　　小学校１年～中学校３年生　１７名（他、急病・体調不良によりキャンセル２名）
※宮城県気仙沼市在住１１名／ 栃木県那須郡那須町在住１名／
栃木県那須塩原市在住１名／ 福島県西白河郡西郷村在住２名／　東京都在住２名
スタッフ　１２名（社会人１０名／　大学生１名／　高校生１名）　他、協力スタッフ（部分参加）４名
参加費　　５０００円（２泊３日の活動費、食費、保険代込）
交通費　　参加者自己負担（気仙沼市の参加者は３０００円を超える交通費は会で補助）
※気仙沼市の参加者は、新幹線・一ノ関～新白河駅間スタッフが引率。一ノ関駅集合・解散。
※東京の参加者も引率予定だったが、参加者自身の希望で引率は無し、新白河駅集合・解散。

収支報告

収　入	収入合計　187,980 円
こども参加費（5000 円×17 名）	85,000
寄付金	102,980
支　出	**支出合計　167,516 円**
事務費（封筒代、チラシ印刷等）	11,588
通信費（資料・チラシ郵送費等）	7,810
備品（プログラム必要物品・生活用品等）	15,126
食材費（食事）	31,132
車両交通費（移動車両燃料）	4,000
温泉入浴料（バス送迎代含む）	10,000
保険代（500 円×29 名）	14,500
引率スタッフ交通費（一ノ関～新白河 1 名）	16,380
気仙沼参加者交通費補助（5180 円×11 名）	56,980

牧場で提供していただいたソフトクリーム。
ほんとうにおいしかった！！
ありがとうございました。

スタッフ　渡辺和浩（なべちゃま）　内田祐生（さちを）　伊藤洋（まゆげ）　小幡明梨（あかり）
ロドリゲス拓海（ロドリー）　井上友里（りっぺ）　高野聖子（せいこ）　宮園香織（かおり）
菅野俊昭（かんちゃん）　岡本聖（ひじりん）　峯松崇平（そうちゃん）　鈴木亮輔（りょうちゃん）
協　力　端野洋子さん 稲妻由紀さん　佐川絵実さん　児玉茂さん　山川社長はじめ森林ノ牧場の皆さん

高校生スタッフ・
ロドリー大活躍①

「まゆげ」の顔は、
こどものキャンパス

高校生スタッフ・ロドリー大活躍②

夜は「怖くない、怖いはなし」

スタッフの喜び！！

スタッフの苦しみ？？

ボランティアスタッフ募集（こんなスタッフを求めています）

たとえば料理の時、子どもに自由に味付けしてもらいますが、大人目線では「ありえない」調味料を使います。そんな時『正しい』作り方を押し付けるのでなく、**一緒に考えプロセスを楽しめるスタッフ**を求めています。

包丁、鋸、鉈など危険な道具も使いますし、子どもの『安全』に責任は求められますが、危険回避だけ考えるのでなく、子どもがどうしたら自分で作業を出来るのか、共に考えるようにしています。**『大人』と『こども』という枠を超え、子ども目線で、一緒に遊びも作業も楽しみ、考えられる人**を求めています。

たとえば、子どもの作った料理が美味しくなくても、一緒に作った充実感を共感できる人。あるいは、嫌味なく笑顔で「まずいよ！！」と言って、がつがつ食べられる人（笑）

ご寄付のお願い

こどもキャンプは、運営費のほとんどが、みなさまからのご寄付に支えられています。参加する子どもに、東日本大震災被災地の方が多く、参加への負担軽減のためにも、皆さまからのご支援をお願いいたします。

食品（お米、素麺など保存のきくもの）食器、スプーン、フォーク等、物品提供もお願いしております。

※お振込みいただける時は、事前にご連絡いただけると幸いです。

振込口座　口座名義：こどもキャンプ codomocamp　代表／渡辺和浩
ゆうちょ記号：１０１５０　番号：６７１７３４４１
※他行からのお振込み　ゆうちょ銀行　店名：〇一八　店番：０１８　口座番号：６７１７３４４

主催団体／　こどもキャンプ（こども・わらずキャンプ楽会）

連絡先／　運営責任者　渡辺和浩　　〒185-0001　東京都国分寺市北町１－１７－６

℡０８０－５３８９－２８８８　　E-mail／ info@codomocamp.com

東日本大震災直後から、宮城県気仙沼市で長期ボランティアを行っていたメンバーを中心に、２０１１夏から１２年まで、前身団体「子どもと野遊びを楽しむ会」として、主に気仙沼市の子ども支援を目的に、現地で９回の宿泊キャンプ、１２回の日帰り行事を開催しました。

２０１３年より以下の新たな活動目的のもと、こども・わらずキャンプ楽会として再スタート、第一回の宿泊キャンプを２０１３年８月８～１１日に千葉県館山市で開催しました。

会と、キャンプの活動目的

・子どもらしく伸び伸びと、自身の事を見つめながら成長してゆける場づくり、人間関係づくりの活動。
・被災地の子どもたちが、被災という体験を負の記憶だけにするのでなく、震災を機に始まった私たちの活動に参加することで、『新たな人や体験、環境との出会いを得られた』と思えるような活動。
・被災を体験した子ども・大人と、直接体験していない子ども・大人が、暮らす地域や体験の違いで分かれることなく、出会い関係を作ってゆける活動。

行事情報・キャンプの様子などは、ホームページでもご覧になれます

（ＨＰ）http://codomocamp.com/　　（ブログ）http://codomocamp.com/blog/